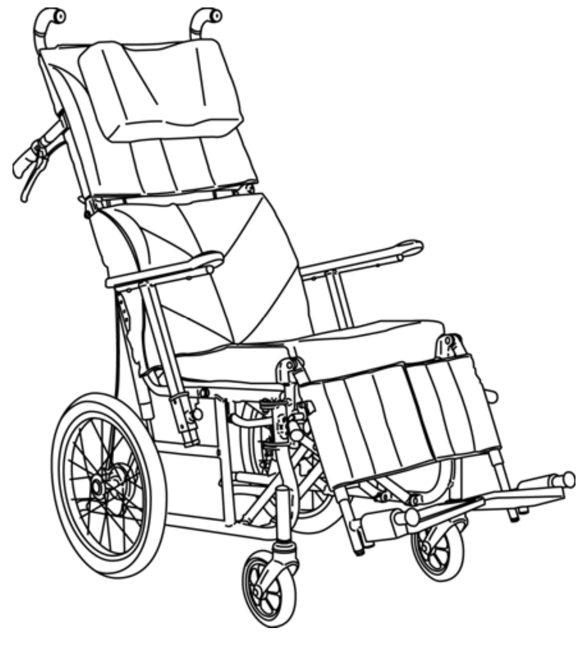
保管用
よくお読みください
保証書別途

取扱説明書

ぴったりフィットシリーズ

KPF16-40(42)



● 目 次 ●

● 目 次 ●	頁
.安全に関するご注意	1
1.同梱部品の確認	8
2.安全ラベル	9
3.各部名称	10
4.お使いになる前に	11
5.各部の操作方法及び使用方法	13
6.シートベルトの使用方法	19
7.ブレーキの使用方法	20
8.肘掛けの高さ調整方法	21
9.脚部の使用方法	22
10.ティルト＆リクライニング方法	24
11.転倒防止バーの使用方法	25
12.ベースシートの調整方法	25
13.ガススプリングについて	26
14.車いすの主な乗り方	27
15.点検・保守	29
16.お手入れの方法	31
17.保管について	31
18.仕様	32
19.製品記録	33
20.保証とアフターサービス	34

このたびはカワムラサイクルの車いすをお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
この取扱説明書は、商品を安全にご使用いただくために必要な注意事項や正しい使用方法が記載されています。

取扱説明書は適宜更新しております。最新版を弊社ホームページからダウンロードしていただけます（http://www.kawamura-cycle.co.jp/product/manual.htm）。

※ご使用になる前に必ずお読みください。また、ご利用の際には必ず携帯していただくか、必要なときにいつでもご覧になれるところへ大切に保管してください。

KAWAMURA 株式会社カワムラサイクル

安全に関するご注意

※ご使用になる前に必ずお読みください。

安全に関する重要な内容ですので、必ずお守りください。

[表示マークの説明]

※正しい取扱いに関する必要事項をシンボルマークで表示しています。

⚠ 警告	取扱いを誤った場合、死亡または、重傷にいたる可能性が想定される場合を示しています。
⚠ 注意	取扱いを誤った場合、障害にいたる可能性または、物的損害の発生が想定される場合を示しています。
禁止	してはいけないことを示しています。
必ず守る	必ずしなければならないことを示しています。

⚠ 警告 取扱いを誤った場合、死亡または、重傷にいたる可能性が想定される場合を示しています。

禁止

●下記の場所には近づかないでください。

・エスカレーター
・ぬかるみのある場所
・凹凸の激しい場所
・深い砂利道
・凍結した道路や雪道
・防護柵のない側溝や路肩付近
・大きな段差
・大きな溝
・急な坂道
・交通量の多い場所
・混雑している場所
・幅の狭い場所

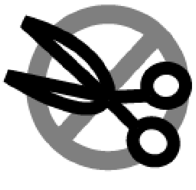
●下記の場合には、走行を避けてください。

・夜間、雨や雪が降っているとき
・風が強かったり霧が深い日
・その他危険が予想される場合

●勝手に改造・分解しないでください。

強度や耐久性が低下して危険です。また、事故になる恐れがありますので絶対に改造・分解しないでください。

故意にシートを切断する等の加工を絶対にしないでください。シートを破断したり、加工した状態でご使用されますとフレームが歪んだり、破断する原因となります。また、シート取付ネジが歪んだり、欠落すると事故の原因になります。



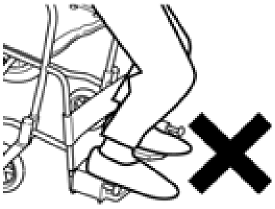
⚠ 警 告

取扱いを誤った場合、死亡または、重傷にいたる可能性が想定される場合を示しています。

禁止

●車いすに乗り降りの際は、決してステップ板(フットサポート)の上に足を載せないでください。

絶対にステップ板の上に乗って車いすに乗り込んだり、降りられるときに立ち上がらないでください。車いすごと転倒し危険です。

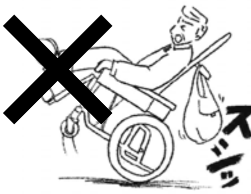


●車いすを火気に近付けないでください。

シート部が燃えたり、熱くなりプラスチック等が変形したり、熱くなった金属部分でやけどするなど、危険です。

●ポケットには１kg 以上の重いものを入れないでください。

過度の荷物はバランスを崩し危険です。また、押手に荷物を吊り下げますとバランスを崩し危険です。絶対に避けてください。

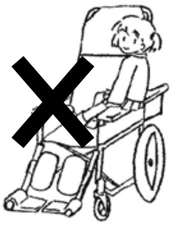


●座シート以外の部分に腰掛けないでください。

●介助者は、絶対に車いすに乗って介助しないでください。

●複数の人数で乗らないでください。

この車いすは一人用です。二人以上で乗ると破損･事故の原因になります。



●急な坂道(勾配４度以上)では使用しないでください。

●押手に寄りかかったり、歩行補助として使用しないでください。

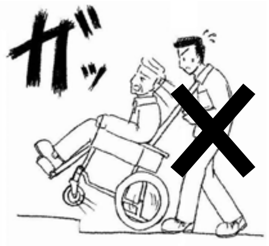
●本説明書に記載されている調整箇所以外の調整を行わないでください。

事故の原因となります。調整が必要な場合はご購入の販売店にご相談ください。

●大きな段差を無理に乗り越えようとしないでください。

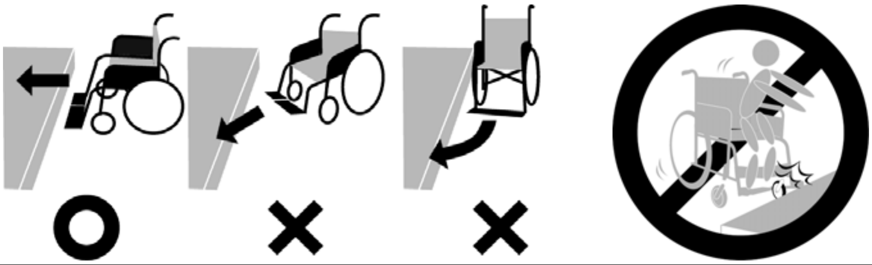
●段差の前では一旦停止してティッピングレバーを利用して乗り越えてください。

決して勢いをつけて乗り越えないでください。大変危険です。また、フレーム及びキャスタ車輪等の損傷を受けます。



●発進するときや段差を乗り越えるときには、キャスタのタイヤが真っ直ぐになっていることを確認してから走行してください。

斜めに進入したり、キャスタタイヤが斜めになった状態で発進すると段差を乗り越えられなくなったり、キャスタが破損して事故の原因となる恐れがあり大変危険です。



⚠ 警告

取扱いを誤った場合、死亡または、重傷にいたる可能性が想定される場合を示しています。

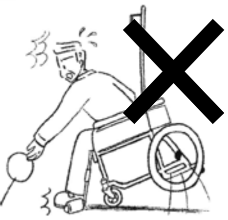
禁止

●車いすでの走行中は、身体を乗り出さないでください。

車いすが不安定になり危険です。

●車いすに座ったまま強い前傾姿勢をとらないでください。

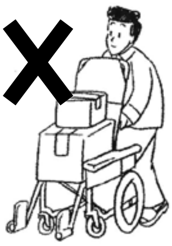
車いすに座ったまま前方の地面に置いてある物を拾うと、車いすごと転倒し大変危険です。



●車いす以外の目的に使用しないでください。

物品運搬・踏み台などに使用しないでください。

車いすの上に立ち上がらないでください。



必ず守る

●この車いすは、室内用に設計されています。室内でお使いいただく事を推奨いたしますが、やむを得ず道路通行の際は、必ず右側通行してください。また、歩道を通行してください。

●車いすを持ち上げる場合、駐車ブレーキをかけ固定されているパイプをしっかり支えてください。

※肘掛けを持たないでください。

※脚部をもたないでくさい。

※背シートを持たないでください。これらの箇所を持ち上げると、脚部や肘掛け等が車いすから外れるなど、大変危険です。

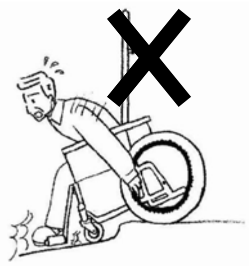
※利用者が乗ったまま持ち上げる場合は、シートベルトをしっかりと締め、３人以上でフレーム前下部とティッピングレバーを持ってしっかりと支えてください。

利用者の身体の一部を持たないでください。

●車いすを持ち上げる際に、車いすにお座りの方の体の一部を持たないでください。

●身体が前のめりにならないよう充分ご注意ください。

段差や凸凹などのある路面等を走行するときは、特にご注意ください



⚠ 警　告

取扱いを誤った場合、死亡または、重傷にいたる可能性が想定される場合を示しています。

必ず守る

●踏み切りの横断やエレベータの乗り降りの際は、車輪をレールに対して直角にして走行してください。

斜めの角度で進入するとレールの溝にはまって危険です。必ず介助者と一緒にわたってください。

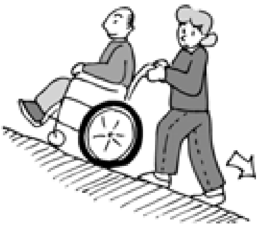
●坂道の上り下りや段差のある場所では、必ず介助者に支えてもらって行ってください。

坂道を上るときは前向きで、下るときは後ろ向きで走行してください。

坂道を前向きで下ると乗っている人が前へずり落ちる、前へ倒れる、スピードが出やすいなど、非常に不安定になり危険です。また、介助者がバランスを失った時も危険です。

[上り坂]

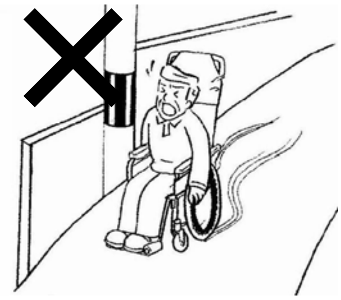
[下り坂]



●傾斜地・坂道での走行は特にご注意ください。

・傾斜地や坂道では、車いすが予想外の方向に進む、スピードが出やすいなど大変危険です。

・車いすからずり落ちる、前へ倒れるなど、非常に不安定になり危険です。



●車いすに乗り降りする際、一時停止する際は、必ず駐車ブレーキをかけて車いすが固定されていることを確認してください。

●駐車ブレーキをかけても、キャスタ（前車輪）はロックされていませんので、動く場合があります。ご利用時には充分ご注意ください。

●走行中は、足を必ずステップ板(フットサポート)の上に乗せてください。

足を地面に付けたままで走行したり、ステップ板)から外して走行すると、ステップ板と地面の間に足が巻き込まれてケガをする恐れがあり、危険です。

●車いすの機能と操作をよく理解し、慣れた状態で介助を行ってください。

●部品等が破損したり損傷がある場合は、すぐに部品を交換してください。

⚠ 警告

取扱いを誤った場合、死亡または、重傷にいたる可能性が想定される場合を示しています。

必ず守る

●次のような場所では走行を避けてください。

・交通量の多い道路　崖の近く
・砂利道
・凹凸のある道
・ぬかるみ
・雪道
・凍結路
・防止柵のない側溝や路肩付近など
・崖
・川土手
・海岸防波堤上
・その他危険な場所

●次のような場所では厳重な注意が必要です。

介助者が付き添い、利用者の身体を支えるなど注意しながらご使用ください。

・狭い道
・踏み切り
・横断歩道
・駅のホーム
・エレベーター
・車いす対応の動く歩道
・車いす対応の福祉車両
・その他危険が予想される場所

●介助用として使用する場合、シートベルトを必ず装着してください。

段差などで不意に衝撃などを受けると身体が投げ出されることがあり危険です。また、シートベルトを外したまま移動するとベルトが車輪にからまるなど危険です。

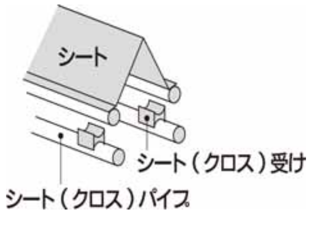
⚠ 注意

取扱いを誤った場合、傷害にいたる可能性または、物的損害の発生が想定される場合を示しています。

禁止

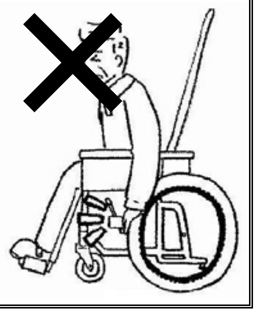
●シート（クロス）パイプがシート受けに収まっている事を確認してご使用ください。

万が一、シート受けから浮いた上体でご使用されますと、フレームが歪んだり、故障の原因となり事故につながる恐れがあります。



●車いすを投げたり落としたり、衝撃を加えないでください。
●背折れ部、ブレーキなどの操作レバー荷物などを掛けないでください。
●小さな子供に使用させたり遊ばせたりしないでください。
●タイヤをもって車輪を操作しないでください。

駐車ブレーキで指をはさむなど、大変危険です。



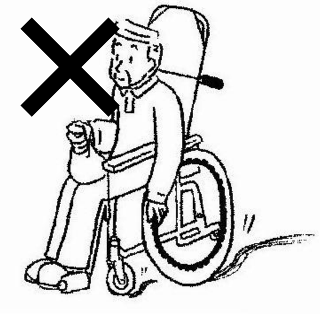
注 意

取扱いを誤った場合、傷害にいたる可能性または、物的損害の発生が想定される場合を示しています。

禁止

●走行する際には片手で操作しないでください。

傘をさしながら、また片手に荷物を持ちながらの片手操作ではバランスを崩す原因にもなります。両手で操作し、バランスを保ちながらゆっくりと走行してください。



●駐車ブレーキのレバーは作動方向以外に力を加えないでください。

また、必要以上に力を加えないでください。ブレーキが変形・破損する恐れがあります。

●駐車ブレーキは必ず手で操作してください。

足などで操作するとブレーキが破損する恐れがあります。

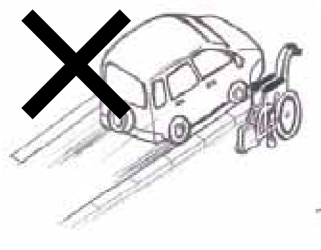
●傾斜地では、駐車しないでください。

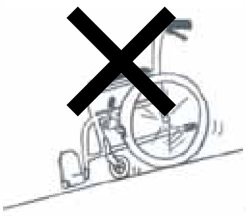
傾斜地では、ブレーキをかけても車いすが動く場合があり、大変危険です。

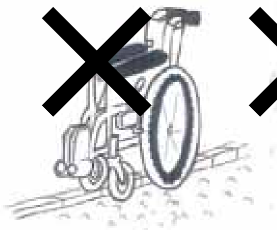
●下記のようなところに車いすや部品を放置しないでください。

- 車道に近いところ
- 路面に段差や凹凸のあるところ
- 海沿いの屋外（潮風の当たるところ）
- ほこりの多い場所
- 非常口、消火器、消火栓の前
- 直射日光の当たる場所（車内も含む）
- ストーブなど火気を使用し高温になる場所
- 子供がいたずらをする恐れのある場所
- 人通りのあるところ
- 湿気の多いところ
- 雨、風のあたる場所
- 坂道
- 暑い日や寒い日の戸外

事故やサビ・破損の原因になります。







●後車輪の空気圧が少なかったり故障した状態で使用しないでください。

ブレーキの効きが悪くなったり、思わぬ事故につながるなど、危険です。

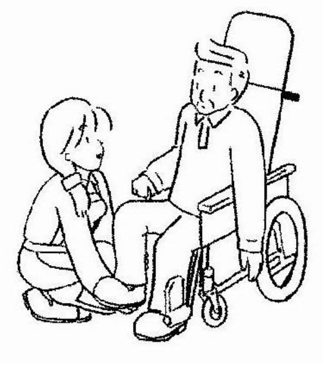
●後車輪の空気圧を適正に保ってください。

適正空気圧は、タイヤの側面に記載されています。（目安として、タイヤを手で押してやや硬い(軟式野球ボール程度の硬さ)に空気を入れてください。）

空気圧が高すぎるとチューブが破裂する危険があります。

⚠ 注 意

取扱いを誤った場合、傷害にいたる可能性または、物的損害の発生が想定される場合を示しています。

禁止	●肘掛け(アームサポート)に腕を載せたまま、肘掛けを跳ね上げないでください。 ●急発進、急停車、急な方向転換をしないでください。
必ず守る	●ご使用前には各部を点検してください。 車いすは“動くもの”ですから、長時間のご使用等により劣化が生じます。 ご使用前の点検を励行し、異常が見つかったら直ちにご使用を中止してください。 ●安定した姿勢で座ってください。 座面深くに座ってください。左右にかたよらずに座ってください。 また、介助者は、ご利用者が安定した姿勢で座っていることを確認してください。 ●回転している車輪に指を挟み込まないように注意してください。 ●車いすにバリなどがないかを確認してください。 衝突等により金属・樹脂部にバリなどが発生することがあります。ケガの原因となりますので、充分ご注意ください。 ●認知症(痴呆症)の方がご使用される場合は、必ず介助者が付き添ってください。 車いすのシート、部品等を飲み込むことや一度かけた駐車ブレーキを不意に解除されることがありますので、充分ご注意ください。 ●ご利用者の心身の状況、症状を充分考慮し、適切な介助を行ってください。 ●介助者の方は、利用者が車いすに安全に座れていることを確認してから操作してください。 利用者の身体の一部または衣服がタイヤ、スポーク、キャスタ及び地面、建物、通行者に触れたりはさまったりしないようご注意ください。 ●靴を履かずに足をステップ板に載せてご使用いただく場合は充分ご注意ください。 壁や柱で足をケガしたり、足がステップ板から落ちて骨折するなど、大変危険です。  ●介助者は、絶対に車いすに載って介助しないでください。 ●車いすの乗り降りや移乗など車いすが不安定になりやすいときには、必ず２名以上の介助者が付き添ってください。 ●最大体重を守ってご使用ください。 使用者最大体重は、積載物も含んだ重さです。 ●皮膚の弱い方のご利用の際には、充分ご注意ください。

なお、この取扱説明書は、仕様変更などによりイラストや内容が一部実車と異なる場合があります。
※以上の注意点以外であっても、無理な使用はおやめください。事故の原因になります。

[製品の特徴・使用目的]

この商品は、リクライニング車いすです。
●背もたれが倒れ、リラックスでき、前ズレしにくい設計です。
●体型・症状に合わせた車いすを選択してください。
●この商品は、一人乗り用です。

１.同梱部品の確認

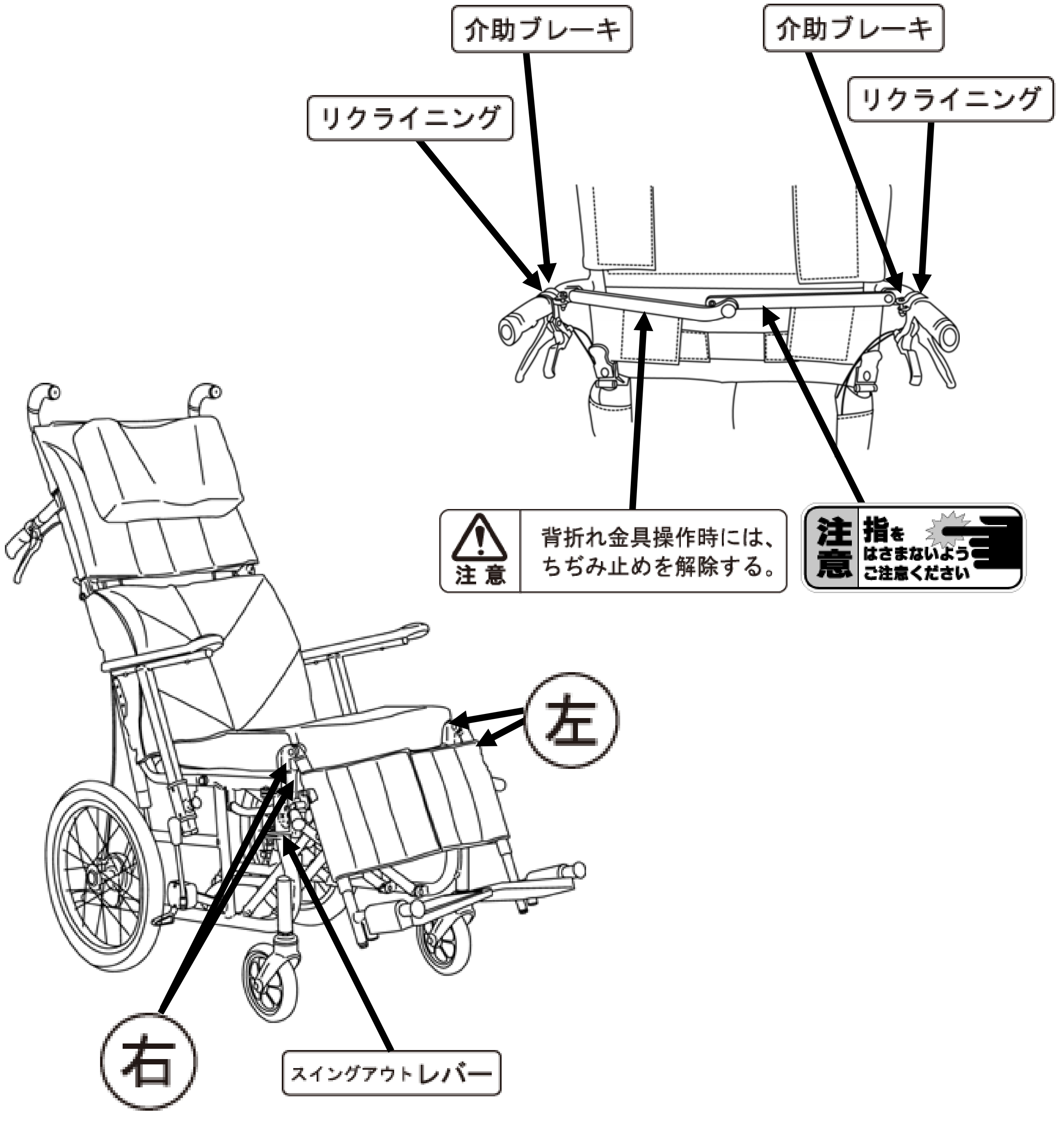
本製品には、以下の部品が同梱されていますので確認してください。

・ 工具（スパナ）　１本

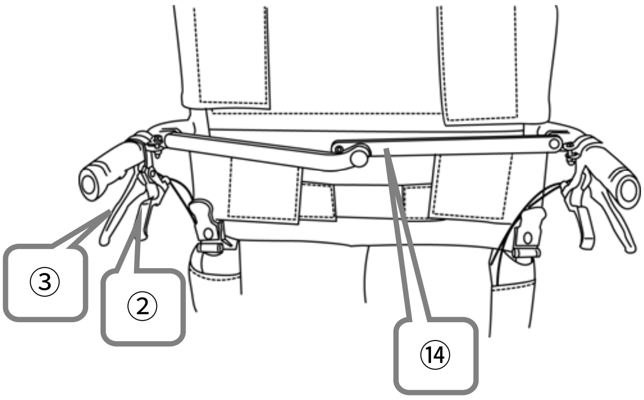
・ 取扱説明書（保証書はがき）

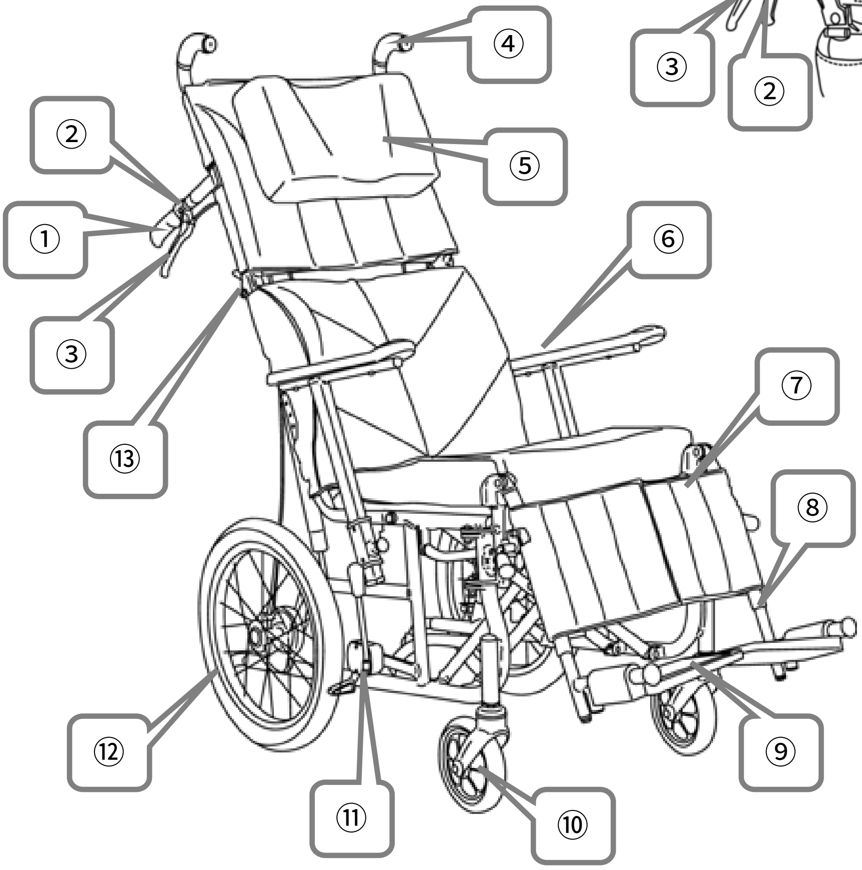
2.安全ラベル

- 取扱い上の重要な事項を記載した安全ラベルが貼ってあります。
- 安全ラベルをすべて読んでからご使用ください。
- 安全ラベルを汚したり、はがしたりしないでください。



3.各部名称





①押手（手押しハンドルグリップ）	介助者が車いすを移動させる際に握る部分です。
②リクライニングレバー（銀）	背もたれ角度を調整する際に握ります。
③介助ブレーキレバー	介助者が使用する制動ブレーキです。
④補助グリップ	背もたれを倒した際に押手の代わりになります。
⑤枕	首が横に倒れないような形になっています。
⑥肘掛け（アームサポート）	高さを四段階で調節できます。（上下式）
⑦足ベルト（レッグサポート）	足が後ろに落ちないように支えます。
⑧脚部（フットレッグサポート）	スイングアウトとエレベーティングができます。
⑨ステップ板（フットサポート）	足をのせる板です。
⑩前車輪（キャスタ）	自在に方向転換できる小車輪です。
⑪駐車ブレーキ	車いすを駐車するときに使います。
⑫後車輪	主輪です。
⑬背折れ金具	車いすを折りたたむ際、さらにコンパクトになります。
⑭ちぢみ止め	車いすに荷重がかかった時に内側にちぢまない為のものです。

4.お使いになる前に

車いすを使用する前に、安全のため各部の点検を行ってください。
長期間使用を続けると、劣化が生じます。

★装着品の確認

- 背ベースシート、座ベースシートは、しっかりと固定されていますか？
- 背クッション、座クッションは、しっかりと取付けられていますか？
- 背折れ金具は、しっかりと固定されていますか？
- 肘掛けは、しっかりと固定されていますか？
- クロスは、しっかりと受けに収まっていますか？
- 脚部は、しっかりと取付けられていますか？
- ヒールループは、しっかりと取付けられていますか？
- ステップ板は、しっかりと取付けられていますか？

★後車輪の確認

- タイヤに空気が充分入っていますか？（タイヤを指で押しても容易にへこまないか）
- バルブが緩んでいませんか？
- タイヤにキズがありませんか？異物が刺さっていませんか？
- タイヤの溝が充分残っていますか？変形していませんか？

★ブレーキの確認

- 駐車ブレーキ（及び制動用ブレーキ）が正しく作動しますか？
- ブレーキをかけた状態で後車輪が回転しませんか？

★肘掛け（アームサポート）

- スムーズに（上下）作動できますか？
- しっかりと固定できますか？
- 傷や亀裂等はありませんか？

★脚部（フットレッグサポート）

- スムーズにスイングアウト、脱着できますか？
- しっかりと固定できますか？
- ステップ板がパタパタしていませんか？
- 傷や亀裂等はありませんか？

★全体的に

- ガタつきはありませんか？
- まっすぐに走りますか？
- 各部ボルトやナットが緩んでいませんか？
- 背折れ金具がしっかりと固定されていますか？
- 背クッション、座クッションがしっかりと取り付けられていますか？
- ワイヤーが部品等にひっかかっていませんか？
- ガスダンパーは正常に作動しますか？ 油もれはありませんか？

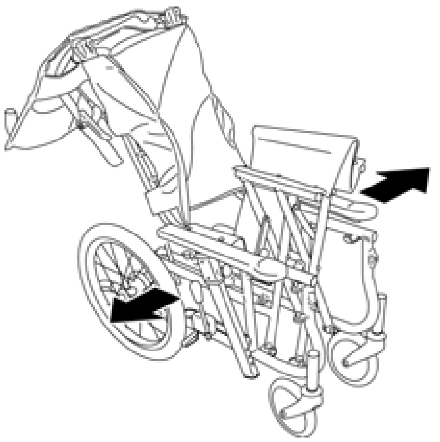
★介助者へ

- 長期間の使用や使用頻度によっては、ガスダンパーやキャスタ車輪、脚部、肘掛け等の劣化がすすむことがあります。使用前点検を励行してください。異常がある場合は、使用を中止してください。
- 次のような場所では必ず介助する人が付き添い、利用者の身体を支えるなど転倒防止に努めてください。
  - ・急な坂道
  - ・凹凸や段差のある場所
  - ・踏み切りの横断、エレベーターの乗り降りなどの溝のある場所
  - ・その他危険が考えられる場所
- 車いすに載って介助しないでください。
- 利用者の身体の一部及び衣服が、タイヤや背折れ金具に触れたり挟まったりしないよう注意してください。
- 利用者の身体の一部及び衣服が、建物、通行者及び地面に触れたり挟まったりしないように注意してください。
- 車いすに重い荷物を載せたり、押手に提げたりしないでください。

5. 各部の操作方法および使用方法

＜車いすの拡げ方＞

①左右に拡げます。

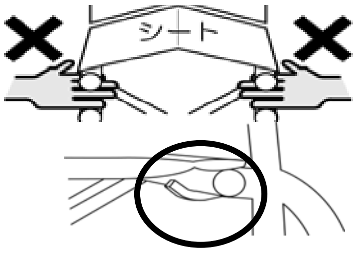


車いすの後方に立ち、左右の肘掛けを持って両側に軽く広げます。	座面端のパイプ部分を手で押し下げます。

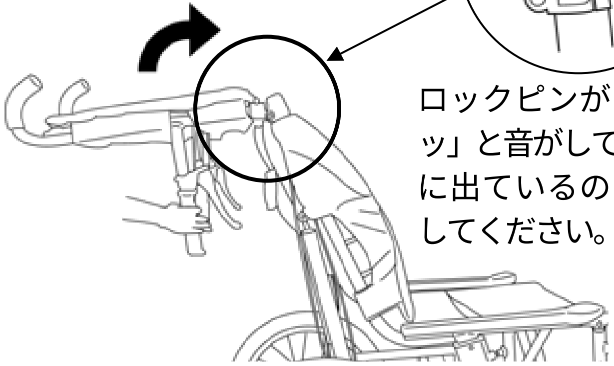
⚠ 注 意

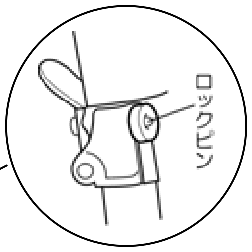
●座パイプの横や下に手や指を置かないでください。挟まってケガをする恐れがあります。

●シートパイプをシート受けに確実に入れてください。フレームが変形して、事故の原因となります。



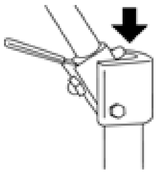
②背もたれを起こします。





ロックピンが「カチッ」と音がして、完全に出ているのを確認してください。

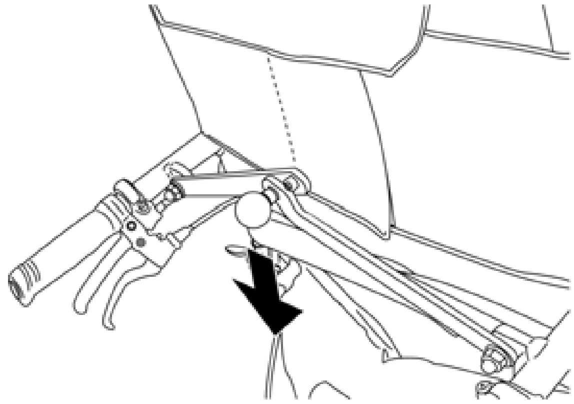
⚠ 注 意



矢印の箇所に手や指をおかないでください。挟まってケガをする恐れがあります。

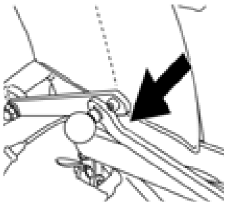
車いすの押手部分を持ち、上方（矢印の方向）へ引き起こすように持ち上げてください。
※このとき、片側の手で車いすが動かないように支えていてください。また，ちぢみ止めが解除されていることを確認してください。
※背もたれが折れた状態で移乗しないでください。
※ちぢみ止めが解除されていないと、ロックピンが作動しにくくなる場合があります。

③押手部と足元のちぢみ止めを固定します。



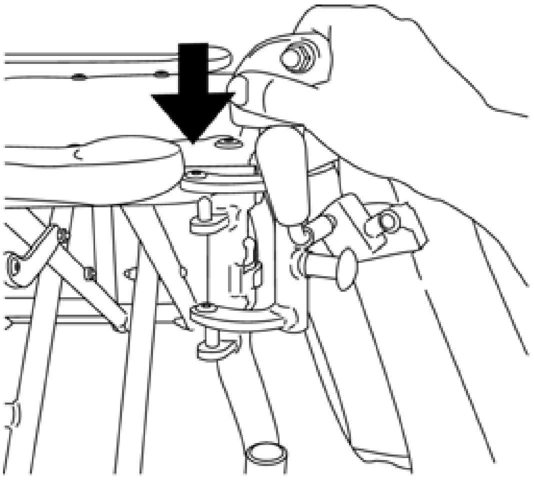
ちぢみ止めのノブ玉を持ち、下方（矢印の方向）へ降ろしてください。
※このとき、背もたれがしっかり固定され、たわまないことを確認してください。

⚠ 注 意

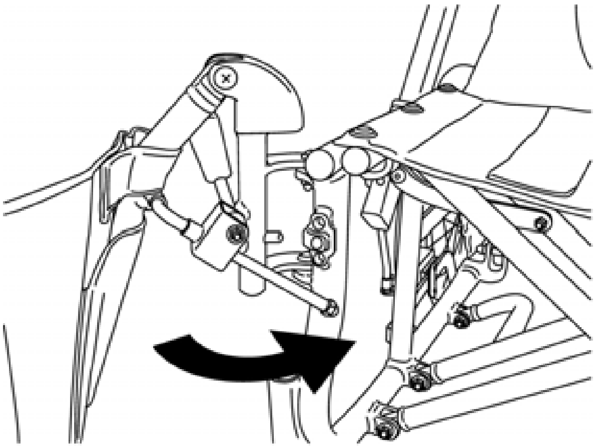


●左図の矢印の部分に手や指を置かないでください。挟まってケガをする恐れがあります。
●使用者が座る前に、必ずちぢみ止めをロックしてください。フレームが歪む可能性があります

⑤脚部を取り付け、調整します。

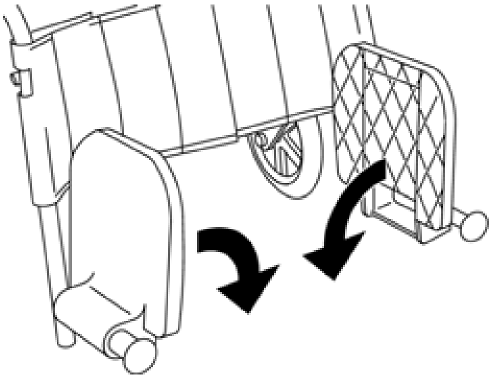


車いす本体にある２つの凸部分に脚部の２つの穴部分を上から差し込みます。

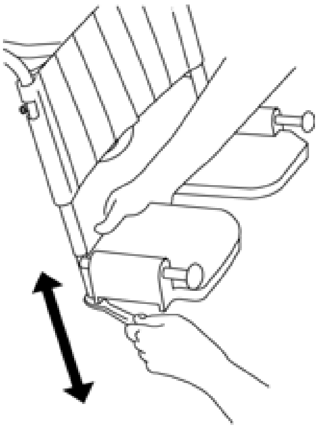


脚部を内側に廻します。このとき「カチッ」という音がして、ロックピンが差し込み穴に収まっていることを確認してください。

出荷時は、ステップ板が外側に回転させて折りたたんでありますので、ステップポスト先端のボルトを少し緩め、内側へ回転させます。



ステップ板を内側にたおします。

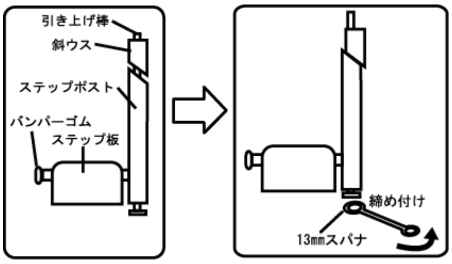


適当な高さに合わせた後、ボルトを完全に締めてください。

⚠ 警告

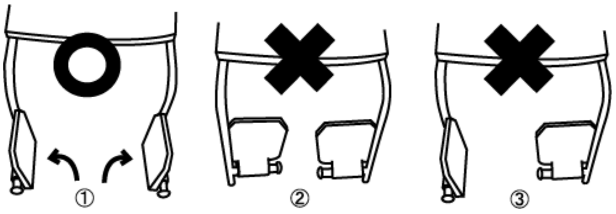
●ステップポストの高さは地面より 5cm 以上でご使用ください。低すぎると凸凹路面や障害物にステップ板があたり、転倒する恐れがあります。

●ステップセット先端六角ボルト部分をスパナでしっかりと締め付けてください。締めることにより斜めウスがズレてステップセットが固定されます。締付が弱いとステップセットが外れる恐れがあります。しっかりと固定されている事を確認してご使用ください。

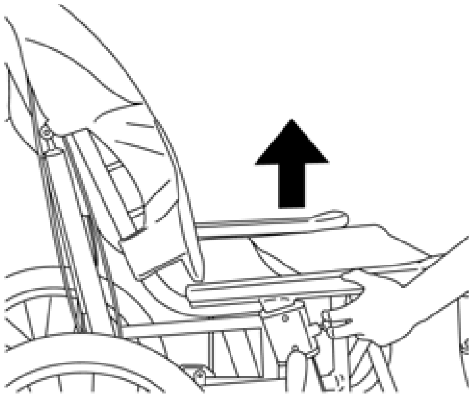


●下図①のようにステップセットを固定してください。

●車いすを折りたたむ時は下図①のようにステップ板を跳ね上げてください。下図②,③のようにステップセットを取り付けると車いすを折りたたむときに干渉し正しく折りたためないため、フレームが歪み車いすに悪影響を及ぼす場合があります。前車輪キャスタに干渉しキャスタが回転しにくくなる場合があります



⑥肘掛けを上げます。



⚠ 警告

階段などで利用者が乗ったまま車いすを持ち上げる場合、絶対に肘掛けを持たないでください。

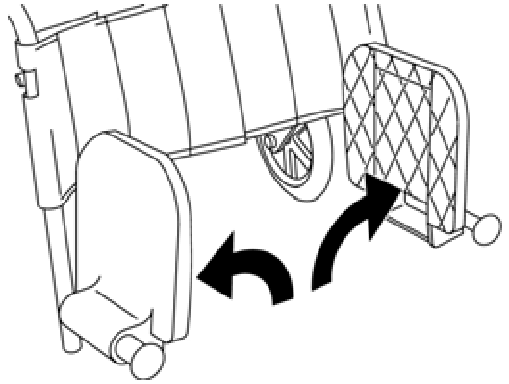
車いす本体側面にある肘掛け差込み口のノブを引きます。引いた状態で肘掛けを矢印の方向にスライドさせ、適当な高さに合わせて「カチッ」というまで上に上げます。
※しっかりと固定されていることを確認してください。

⑦座クッションと枕を取付けます。

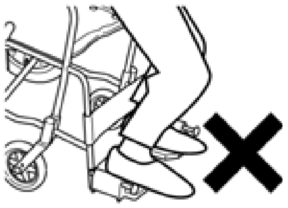
＜車いすのたたみ方＞

①座クッションと枕を取り外します。

②ステップ板を跳ね上げます。



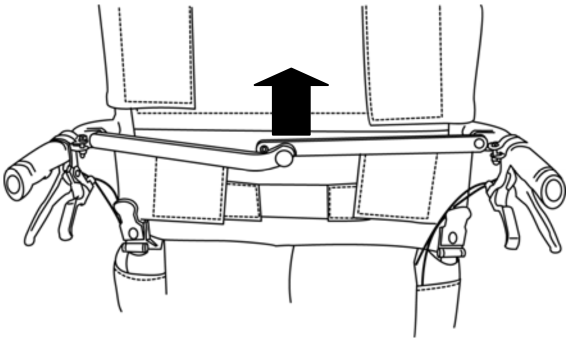
⚠ 警 告



車いすから降りる際、絶対にステップ板の上に乗らないで下さい。車いすごと転倒し、大変危険です

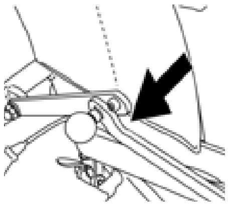
ステップ板を上方へ（矢印の方向へ）跳ね上げます。
※ステップ板を内側にたおした状態のままだと、折りたたみが出来ないので、ステップ板が上方へ上がっていることを確認ください。

③押手部のちぢみ止めを解除します。



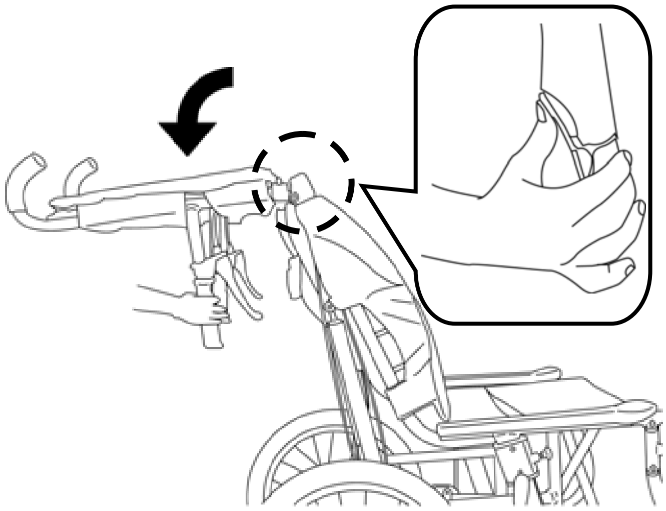
ちぢみ止めのノブ玉を持ち、上方（矢印の方向）へ軽く上げてください。
※ロックされた状態のままだと、折りたたみが出来ないので、ちぢみ止めが上方へ上がってロックが解除されていることを確認ください。

⚠ 注 意

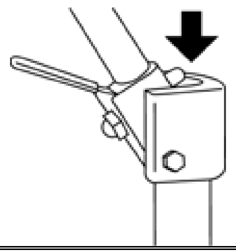


- ●左図の矢印の部分に手や指を置かないでください。挟まってケガをする恐れがあります。
- ●使用者が座る前に、必ずちぢみ止めをロックしてください。フレームが歪む可能性があります

④背もたれを折りたたみます。



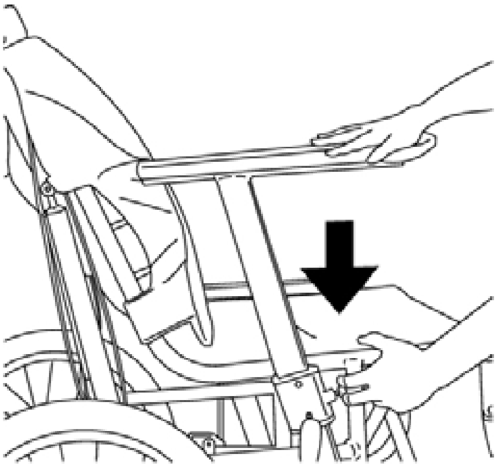
⚠ 注 意



矢印の箇所に手や指をおかないでください。挟まってケガをする恐れがあります。

押手を握り、一方の手で背折れ金具のレバーを前方へ押しながら押手を手前に倒します。
※ 背折れ金具操作時には、ちぢみ止めを解除してから操作してください
※ 背もたれが折れた状態で移乗しないでください。

⑤肘掛けを下げます。



⚠ 警 告

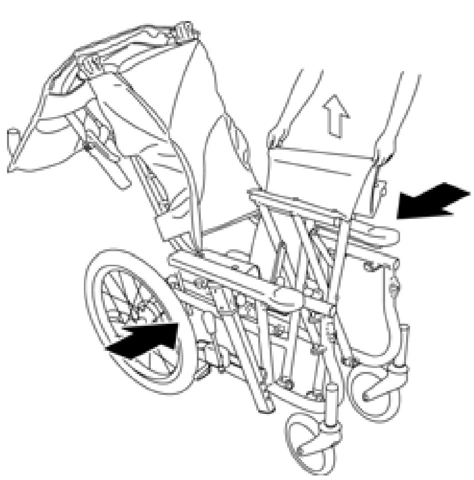
階段などで利用者が乗ったまま車いすを持ち上げる場合、絶対に肘掛けを持たないでください。

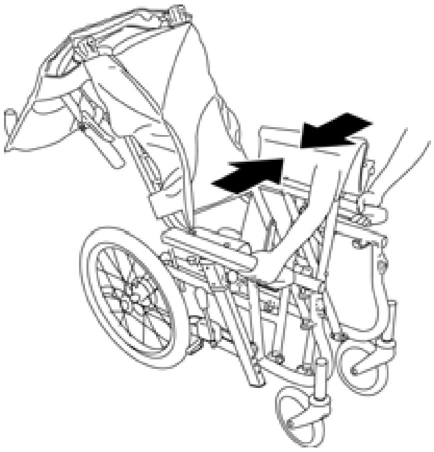
車いす本体側面にある肘掛け差込み口のノブを引きます。引いた状態で肘掛けを少し下にスライドさせ、ノブを放します。そのまま肘掛けを下にスライドさせます。

⚠ 注 意

●その際、手や指を挟まないように注意してください。

⑥シートを折りたたみます。

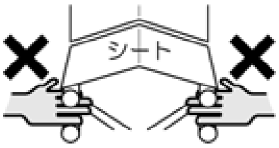




座シートの前方と後方の中央部を同時に持ち上げます。

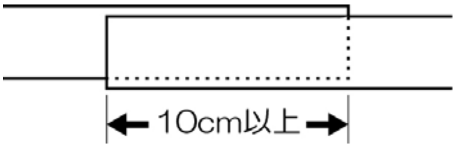
肘掛けを持って、左右から押し縮めるように折りたたみます。

⚠ 注 意



●座パイプの横や下に手や指を置かないでください。
挟まってケガをする恐れがあります。
●折りたたむ際に、押手を持って左右から押し縮めないで下さい。フレームの破損の原因となります

6.シートベルトの使用方法



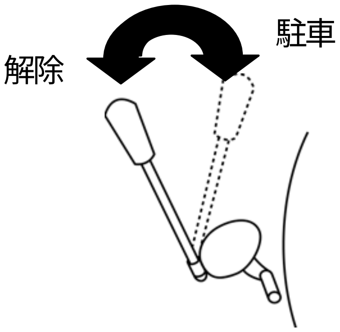
車いすに深く腰掛け、面ファスナーの接着部分を１０ｃｍ以上重ね合わせてしっかりととめてください。

⚠ 注 意

●シートから落ちるおそれがあるので必ずシートベルトを使用してください。転落事故の原因となります。
●面ファスナーに糸くず･汚れなどがついたときは取り除いてください。
接着力が弱まり、事故の原因となります。

7.ブレーキの使用方法

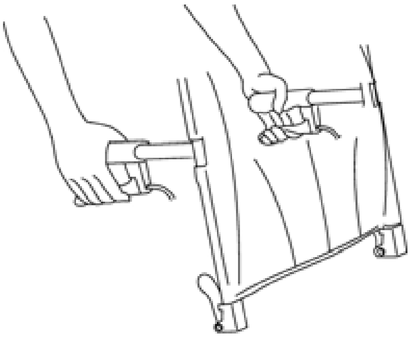
＜駐車ブレーキ＞



車いす乗降時には、必ず駐車ブレーキをかけて、車いすが固定されていることを確認してください。

※空気入タイヤをご使用の場合、空気圧が低すぎるとブレーキの効きが悪くなります。
目安として、タイヤを手で押してやや硬い程度（軟式野球ボール程度の硬さ）に空気を入れてください

＜介助ブレーキ＞



走行中や下り坂での制動ブレーキとしてご使用ください。
ブレーキレバーは介助者の方が必ず両側同時にかけてください。ブレーキレバーを握るとブレーキがかかり、離すと解除します。

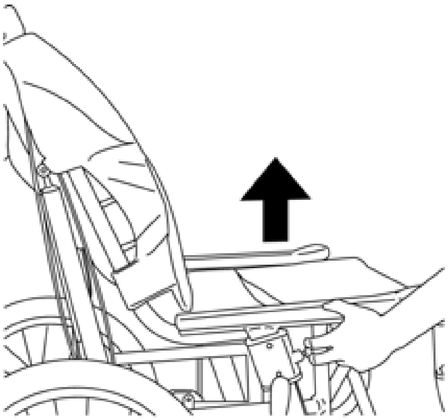
警 告

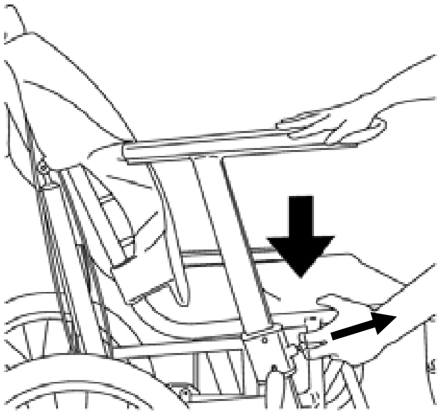
※一ヶ月に一度は安全点検を行ってください。

●ブレーキの効き目が強すぎたり弱すぎたりする場合は、ご使用を中止し販売店にご相談ください。
●ブレーキレバーの作動方向以外に力を加えないでください。また、必要以上に力を加えないでください。
ブレーキが変形・破損する恐れがあります。

●坂道や傾斜地では駐車しないでください。坂道や傾斜地では駐車ブレーキをかけても車いすが動く場合があり、大変危険です。（滑りやすい床面などでは駐車ブレーキをかけても車いすが動く場合があります。）

8.肘掛け（アームサポート）の高さ調整方法





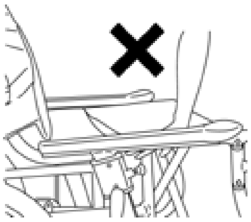
肘掛け高さは、
☆ 19cm
☆ 21cm
☆ 23cm
☆ 25cm
☆ 27cm
の 5 段階に
調整できます。

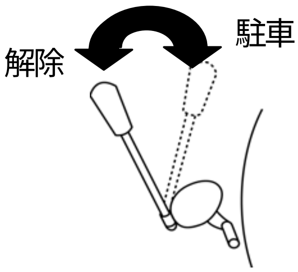
肘掛けを矢印の方向に上げます。（高さ 5 段階調節の場合はノブを引いてロックを解除し、肘掛けの高さを調節してください。）

ノブを引いてロックを解除し、肘掛けを矢印の方向に下げます。

⚠ 警 告

●肘掛けを上げた状態でご使用ください。転倒の原因となり、大変危険です。





●肘掛けとフレームとの間には手や腕などが入らないようご注意ください。挟まってケガをする恐れがあります。

●ご使用時は肘掛けがしっかりと固定されていることをご確認ください。調整ピンが調整穴に確実に収まっていないと、体重をかけたとき急に肘掛けが下がるなどの危険があります。

●車いす乗降時には必ず駐車ブレーキをかけ、車いすが固定されていることを確認してください。

※坂道や傾斜地では駐車しないでください。坂道や傾斜地では足踏み（駐車）ブレーキをかけても車いすが動く場合があり、大変危険です。

※滑りやすい床面などでは駐車ブレーキをかけても車いすが動く場合があります。

●階段などで利用者が乗ったまま車いすを持ち上げる場合、固定されているパイプを 3～4 人でしっかり支えてください。絶対に肘掛けを持たないでください。肘掛けが抜ける恐れがあり大変危険です。

⚠ 注 意

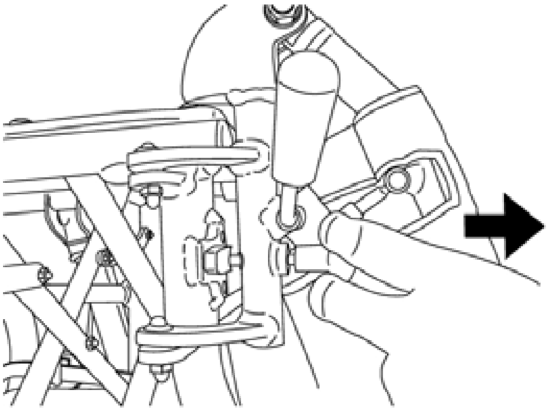
●肘掛けに腕を乗せたまま、肘掛けを上下しないでください。

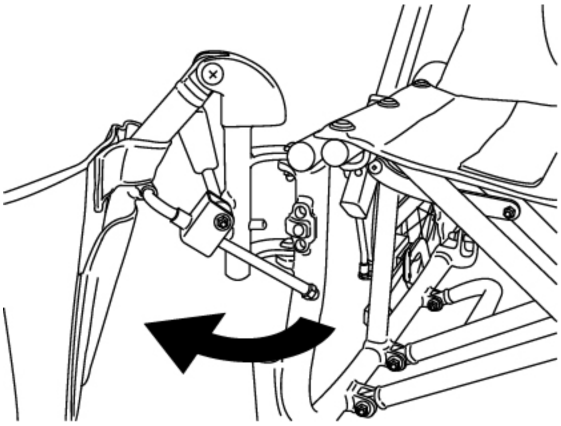
●肘掛けを下げるとき、手や指、衣服等を挟まないように注意してください。

9.脚部（フットレッグサポート）の使用方法

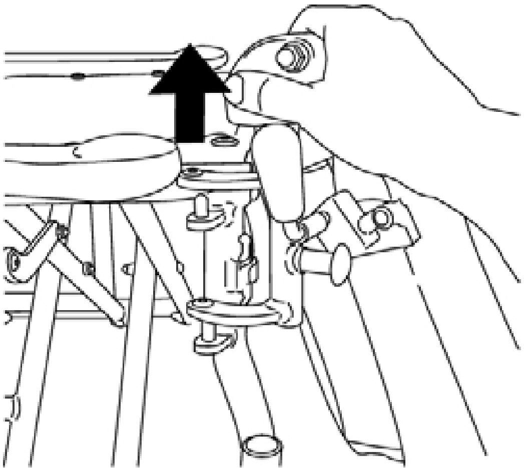
<スイングアウトする場合>

ノブを引いて固定ロックを解除し、脚部を外側に廻します。

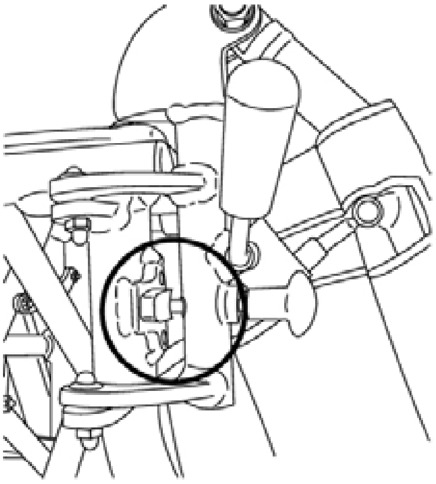




<取り外す場合>



<戻す場合>



外側に廻した状態で脚部を上に引き抜くことができます。	「カチッ」という音がして、ロックピンが差し込み穴に収まっていることを確認してください。

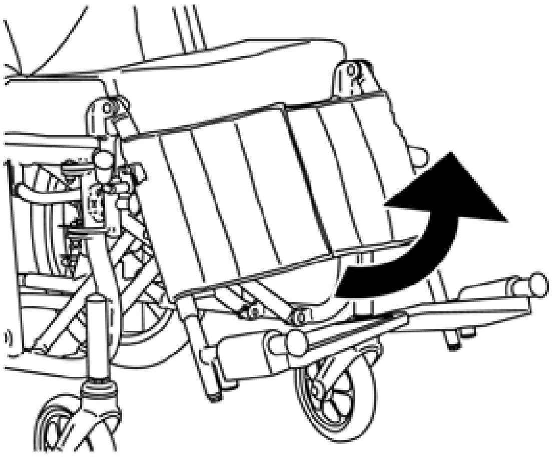
⚠ 警告

●階段などで利用者が乗ったまま車いすを持ち上げる場合、固定されているパイプを 3～4 人でしっかり支えてください。絶対に肘掛けを持たないでください。肘掛けが抜ける恐れがあり大変危険です。

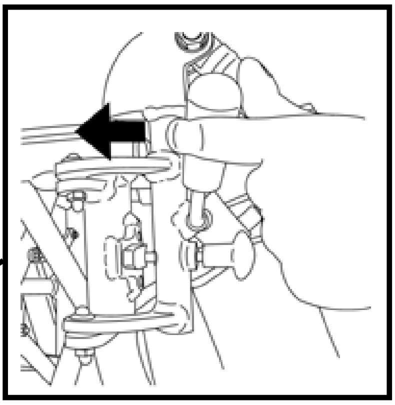
＜エレベーティングする場合＞

脚部を上げ、レバーを矢印の方向へ引いてロックを解除し、下げます。

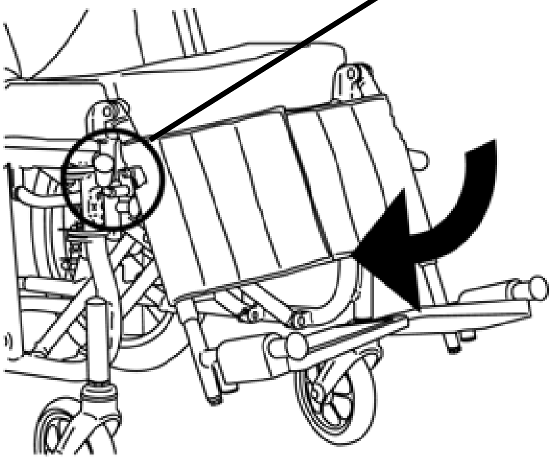
上げる場合



脚部を矢印の方向に持ち上げます



下げる場合



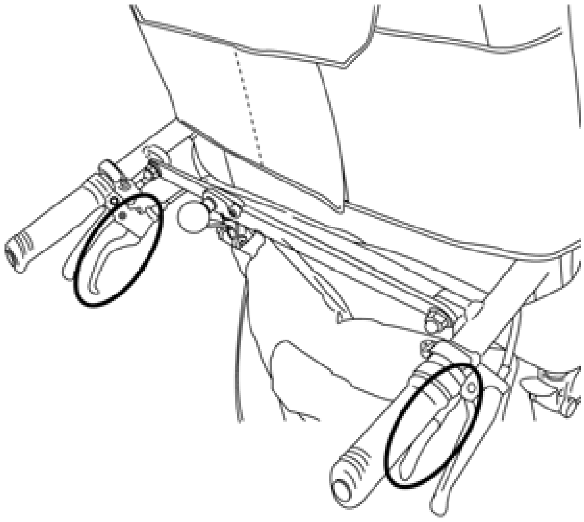
手を添えて脚部を支えながら、もう一方の手でロック解除レバーを背もたれ側に倒します。
※左右別々に動きますので、ご注意ください。
※脚部の動きに注意して、操作してください。

⚠ 警告

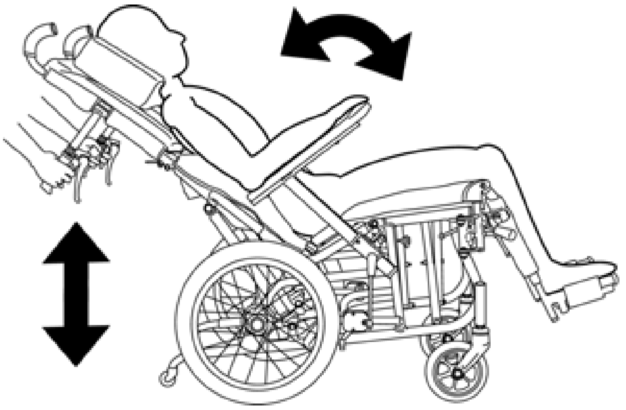
●階段などで利用者が乗ったまま車いすを持ち上げる場合、絶対に脚部を持たないでください。脚部が抜ける恐れがあり大変危険です。

10.ティルト＆リクライニングの使用方法

背もたれを倒す場合は、リクライニングレバーを握って、下方向へ押すように力を加えます。
背もたれを起こす場合は、リクライニングレバーを握って、上方向に引き上げるようにして力を加えます。



リクライニングレバー（○で囲われた銀色のレバー）を握ります。

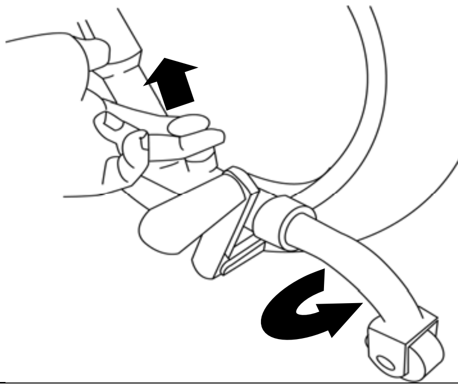


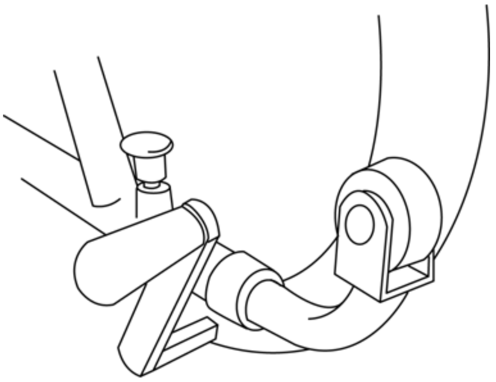
リクライニングレバーを握った状態で、下へ下げると背もたれが倒れます。
※リクライニングレバーを放すと、その時点で背もたれは固定されます。
※人が座った状態でないと背もたれを倒すことは出来ません。

⚠注 意

●リクライニング（背もたれを倒した）状態で走行しないでください。　転倒の恐れがあります。
●リクライニング機構（ガススプリング）部に手や足を入れないでください。
●リクライニング時は、一声かけてから行いましょう。
●リクライニング時は後方へ転倒しやすくなり、非常に不安定となります。必ず介助者が付き添ってください。また転倒防止バーを装備しておりますが走行の際には充分に注意してください。
●補助グリップはリクライニング時に押し手として使用するものですが、あくまで補助的なものなので無理な力を加えないで下さい。フレームの破損や歪みの原因となります。
●リクライニングする時は必ず両方のレバーを握り、左右に均等に力を加えて下さい。バランスを崩して転倒したり、左右のフレームが歪んだりする恐れがあります。

11.転倒防止バーの使用方法

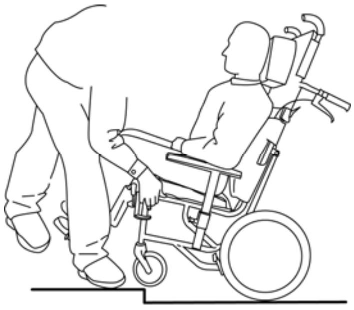




転倒防止が邪魔になる時は、ノブを引っ張りながら転倒防止バーを上に廻してください。

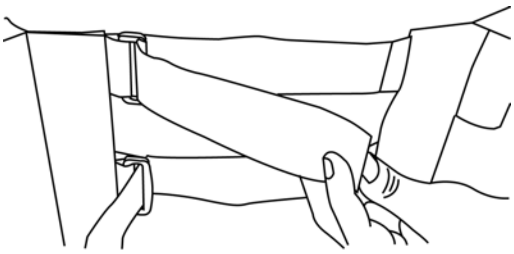
⚠ 警 告

●段差を乗り越える際は、固定されているパイプを持って持ち上げてください。
※ティッピングを踏んで前車輪を浮かそうとすると、フレームがひずむ可能性があります。
※脚部や肘当て等を持って持ち上げると思いがけず外れる事があり、危険です。



12.ベースシートの調整方法

この車いすの背ベースシートは利用者の方の体型に合わせて調整できます。一番楽な姿勢が保持できるように調整してください。



ベースシートの調整ベルトを、ご利用者の体型に合わせて張り調整し、クッションを乗せます。
これを利用することにより、背中にゆとりができ乗り心地が大変よくなります。

⚠ 注 意

●ベースシートを張りすぎるとシートパイプ受けにシートパイプが収まらなくなる場合があります。
●ベースシートを張りすぎると背パイプやクロス金具が中央に寄ってしまい、幅が狭くなってしまいます。また、フレームの変形の原因にもなります。
●面ファスナーに糸くず・汚れなどがついたときは取り除いてください。接着力が弱まり、事故の原因となります。
●背クッションはポケットが付いているほうが外側です。裏表、前後の向きにご注意ください。

13.ガススプリングについて

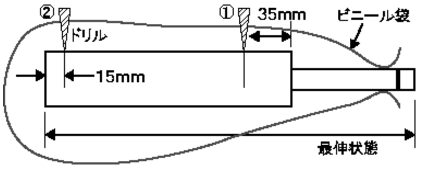
廃却する際は、次の注意を守ってください。この部品は、窒素ガスが高圧で封入してあるため、ガスを抜かずに処理すると、爆発によりケガをすることがあります。

（注意事項）

・押しつぶさない。
・切断しない。
・図以外の場所に孔を開けない。
・火に入れない。

（廃却の手順）

1.プッシュロッドを押し、最伸状態にする。
2.ビニール袋をかぶせ、その上から２～３㎜ドリルで①の孔をあけ、ガス・油を抜いたあと②の孔をあけてください。（必ず①②の手順を守ってください。）
3.ビニール袋を使用しない場合は、油や切粉が飛びますので充分ご注意ください。（この場合メガネをかけて作業してください）



左図の要領で孔をあけ、ガス抜きをしてから廃却してください。

⚠ 注 意

●スパナやドライバーなどの工具の使用にて締め付ける場合、薄手の手袋をご使用ください。
●異常が見つかったらご使用を中止してください。

★ガススプリングの取り扱い上の注意

⚠ 注 意

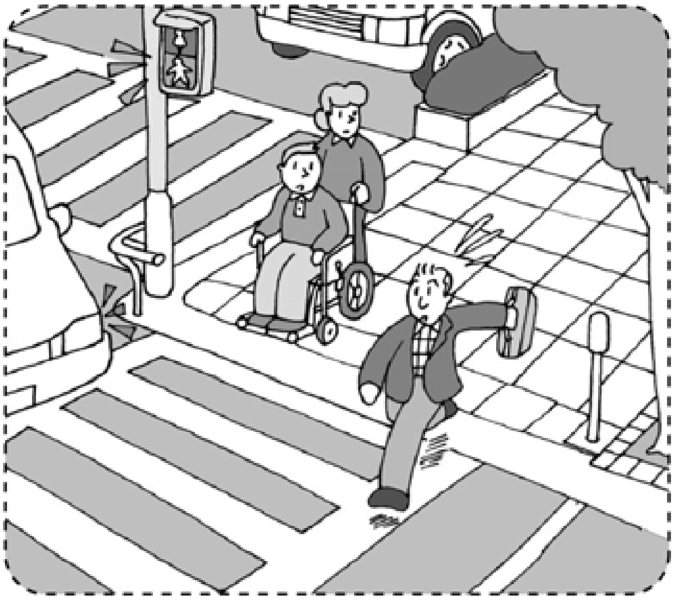
●摺動部（伸び縮みしている部分）に注油は一切不要です。注油するとシールの耐久性をなくし油漏れの原因となります。
●衝撃を加えることは絶対に避けてください。油漏れ、作動不良、破損の原因になります。
●分解することは絶対に避けてください。高圧ガスが封入されていますので、分解すると非常に危険です。
●曲げ荷重の負担がかかりますと曲げ方向の剛性が少ないので取り付けの精度によりロッドが曲がり作動不良の原因となります。
●ピストンロッドおよびシリンダーに打痕をつけますとシールの寿命を縮めたり、作動不良の原因になります。
●周囲の気温があまり高いまたは低い場所でのご使用はご注意ください。-10 度～80 度の範囲内でご使用ください。
●雨や水のかかる場所、ホコリの多い場所でのご使用は避けてください。

１４.車いすの主な載り方

⚠ 警 告

●タイヤの空気が充分入っているか確認しましょう。
●下り坂は加速がつき危険です。いつでもブレーキがかけられるよう慎重に。
●いきなり公道に出るのは危険です。屋内や庭など安全な場所で練習しましょう。
●車道はできるだけ通らず、歩道や充分な幅のある路側帯を通りましょう。

車いすは歩行者として取り扱われます。
歩行者としての交通ルールを守りましょう。



●「自転車及び歩行者専用」､「歩行者専用」のマークのある歩行者専用道路も通ることができます。
●信号機のある場所では､「青」が点滅中に横断するのは危険です。次の「青」信号を待ちましょう。

★焦らずゆとりを持った横断、走行を心掛けましょう。

⚠ 注 意

●車いすは乗り物ですから、定期点検が必要です。長期の使用によって劣化が生じます。異常が発生した場合は、直ちに使用を中止してください。

★移乗　　車いすに乗る方を介助者がベッドなどから移す方法です。
双方にとって安全で負担の少ないことが重要です。

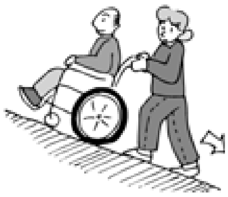
介助者が片足を相手の膝の間に差し込んで、腰を支えながら立ち上がらせます。

介助者の膝で相手を支えながら、車いすの方へお尻を向ける。

ゆっくりと腰を下ろしてもらう。
※「いち、にの、さん」と声をかけながらおたがいに協力し合いましょう。

※　転倒しないように、充分な配慮が必要です。
※ 背もたれが折れた状態で移乗しないでください。

★外出（坂道）　車いすの安全な使い方は、“ゆっくり”“確実に”と“シートベルト着用”が基本です。



＜上り坂＞
押す人は身体を少し前に倒して、押し戻されないよう、一歩ずつしっかりと押します

＜下り坂＞
坂を下るときはブレーキを軽く使いながら、後ろ向きに一歩ずつ下ります。
シートベルトを必ずご利用ください。

15.点検・保守

1 ヶ月に 1 度は安全点検を行ってください!!

★タイヤに空気は充分入っていますか？

空気入タイヤをご使用の場合は、空気圧にご注意ください。
タイヤの性質上空気は自然と減っていきます。1 ヶ月に1回は空気を入れてください。適正空気圧は、タイヤの側面に記載されています。空気圧が低すぎると駆動が重くなり、またブレーキの効きが悪くなります。高すぎると破裂の原因となります。

[目安]タイヤを手で押してやや硬い程度(軟式野球ボール程度の硬さ)に空気を入れてください。

【適正空気圧(参考)】

18～24in 一般：400kPa（減圧弁圧）

22in 軽量：700kPa（減圧弁圧）

16in 以下一般：300kPa（減圧弁圧）

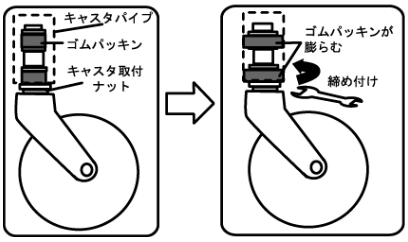
[注意] 弊社の車いすに使用しているバルブは「英式バルブ」ですので、空気圧は正確には測定できません。
英式バルブは空気が一方的に入るだけで、漏出させることができない構造になっているため、ポンプに内装型の圧力ゲージでも、 単体の圧力ゲージでも英式バルブの正確な空気圧測定はできません。

★タイヤの溝は充分認識できますか？

タイヤの減りが激しいものはパンクの原因になったり走行性やブレーキの効きが悪くなるので交換が必要です。
また、タイヤやキャスタのひび割れにもご注意ください。

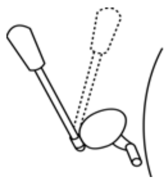
★車輪やキャスタはしっかり固定されていますか？

車輪を留めているボルト、キャスタを留めているボルトは緩んでいませんか？緩んでいると使用中突然車輪やキャスタが外れて転倒するなど大変危険です。充分ご確認の上、しっかりと締めてください。



（出荷時には充分に締め付けてありますが、ご使用されている間に振動により緩む場合がありますので、定期的に点検してください。）
スパナでキャスタ取付ナットを締めると、ゴムパッキンが膨らみ、キャスタが固定されます。キャスタ取付ナットをしっかりと締めてください。締付が弱いとキャスタが外れる恐れがあります。

★ブレーキはしっかり効きますか？



タイヤの空気圧が下がると駐車ブレーキの効きが弱くなります。
空気圧のチェックとともにブレーキの取付ネジの緩み、ブレーキ本体のガタなどがないかご確認ください。もし、異常がございましたら、直ちにご使用をお止め頂き、すぐにお買い上げの販売店までご連絡ください。

★フットプレートはしっかり固定されていますか？

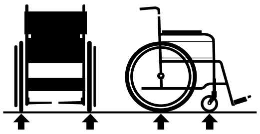
付属品のスパナを使って、ステップパイプ先端のボルトを緩め、適当な高さに合わせた後、ボルトを完全に締めてください。

異常が見つかったらご使用を中止してください。

★変な音がしませんか?

変な音がする場合、どこでその音が発生しているかをご確認してください。ブレーキワイヤーが車輪に擦れている、ベアリング部の油分が不足しているなどの原因が考えられます。原因が不明な場合、修理不可能な場合はお買い上げの販売店までご連絡ください。

★四点接地していますか？



前車輪二輪と中央輪が接地しているかご確認ください。
四点接地していない場合、フレームの歪みやネジの緩みが考えられます。直ちにお買い上げの販売店までご連絡ください。

★まっすぐ進みますか？

平地で車いすを左右均等な力で押してください。自然に曲ってしまう場合、どこかが歪んでいる可能性があります。原因となっている箇所の修理・交換を行ってください。

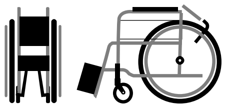
★シートに破損やたるみ、傷みはありませんか？

車いすは湿気に弱いので、雨にぬれる場所などに放置していたり、長時間続けてご使用になるとシートに破損・たるみが発生します。座り心地を損なわない姿勢が保ちにくくなりますので、たるみ・破損が著しい場合は交換をおすすめします。

★ネジの緩みはありませんか？

ガタがある場合は、ネジの緩みや脱落が考えられます。ネジが緩んでいたら必ずしっかりと締めてください。締めてもすぐに緩む、締まらないなどの不具合があれば、直ちにご使用をお止め頂き、すぐにお買い上げの販売店までご連絡ください。

★きちんと折りたためますか？



折りたたみに異常がある場合、クロスの金具のネジの緩みや摺動部分の油切れが考えられます。ネジの締め付け、注油を行ってください。

★ワイヤーは切れていませんか？

ブレーキワイヤー、リクライニングワイヤーは切れていませんか？安全のために、１年に１度定期的に交換してください。

★洗浄の際には、水、お湯または中性洗剤をご使用ください。

洗浄後は、充分に乾燥させてください。カビやサビの原因になります。

⚠ 注 意

●スパナやドライバーなどの工具の使用にて締め付ける場合、薄手の手袋をご使用ください。
●異常が見つかったら、直ちにご使用を中止して販売店へご相談ください。

16.お手入れの方法

★金属部分（フレーム）

フレームなどの金属部は、乾いた布でよく汚れを落として、自動車用のワックスをかけ、乾いた布で拭き取ってください。スポークの通常のお手入れは、水を用いずに汚れを落とす程度で充分です。凹凸のある部分の汚れ、頑固にこびり着いた汚れは、市販の中性洗剤を用いてください。

★樹脂（プラスチック）部

樹脂部品には、市販の中性洗剤をご使用ください。

★クッション、シート類

シート部分をぬるま湯で拭き、きれいな水で仕上げ拭きを行い、乾かしてください。
面ファスナーに糸くず、汚れなどが付いたときは取り除いてください。取り除かないと、面ファスナーの接着力が弱くなり、事故の原因となります。

＜汚れがひどいとき＞

- ●汚れがとれにくい場合は、中性洗剤を用いてください。その後、乾燥させてください。
- ●しみは、スポンジまたは柔らかいブラシを用いて取り除いてください。
- ●洗う場合は、ぬるま湯で手洗いしてください。洗濯機、乾燥機の使用はお避けください。
- ●クッション表面に面ファスナー（オス）が接触しないようにしてください。（クッション生地のほつれ、けばだちの原因となります。）

注 意

- ● 熱湯やオゾンで洗浄しないでください。故障・変質・変色の原因となります。
- ● 中性洗剤以外を使用しないでください。中性洗剤以外を使用すると変質・変色・傷みの原因となります。
- ● シンナーやベンジンなどの揮発性のものは使用しないでください。変質・変色・傷みの原因となります。
- ● たわし、みがき粉および硬いブラシは使用しないでください。傷みの原因となります。

17.保管についてのお願い

車いすは、お手入れ後、安全な場所に保管してください。

注 意

●下記のようなところに車いすや部品を放置しないでください。

- ・車道に近いところ
- ・路面に段差や凸凹のあるところ
- ・海沿いの屋外(潮風の当たるところ)
- ・非常口、消火器、消火栓の前
- ・ストーブなど火気を使用し高温になる場所
- ・子供がいたずらをする恐れのある場所
- ・人通りのあるところ
- ・湿気の多いところ
- ・雨、風のあたる場所
- ・直射日光の当たる場所（車内も含む）
- ・坂道
- ・暑い日や寒い日の戸外
- ・ほこりの多い場所

18.仕　様

品名・名称			標準仕様・規格
			KPF16-40・42
座　　幅		(mm)	400・420
前座高さ		(mm)	460
レッグ長さ		(mm)	350～
シート奥行き		(mm)	座幅 400：360・座幅 420：380
背もたれ高さ		(mm)	850
アームレスト高さ		(mm)	190・210・230・250・270
全高		(mm)	1260
全長		(mm)	1270（最長 1520）
全幅		(mm)	620・640
折りたたみ時のサイズ	全高	(mm)	900
	全長	(mm)	1220
	全幅	(mm)	380
重量		(kg)	21.6
駆動輪		(ｲﾝﾁ)	16　エアータイヤ　バンド式
タイヤ		(ｲﾝﾁ)	16 x 1.50　エアータイヤ
キャスタ		(ｲﾝﾁ)	6　ニューソフトキャスタ　樹脂ヨーク付
フレーム			TP ゴールド　/　メタリックレッド
背シート			適合調整シート
座シート			調整なしシート
肘掛け			高さ調整式　落とし込み式
肘当てパッド			エッグパッド
ハンドグリップ　にぎり			上部：テールなし　ソフトタイプ　　下部：テール付
脚部			スイングアウト＆エレベーティング式（脱着可）
レッグレスト　足ベルト			ベルト式　　中央分割式
フットレスト			D.標準式　黒色
ステップ板			d.樹脂製　黒色
ステップポスト			Φ16
バンパーゴム			黒色　合成ゴム
駐車ブレーキ			エッグストップ
にぎり			黒色　合成ゴム　（ペダル部）
ガススプリング			15kgf　　150 ㎜ストローク
転倒防止バー			キャスタ付

※記載の寸法は設計値であり、実際の車体とは多少誤差がある場合があります。

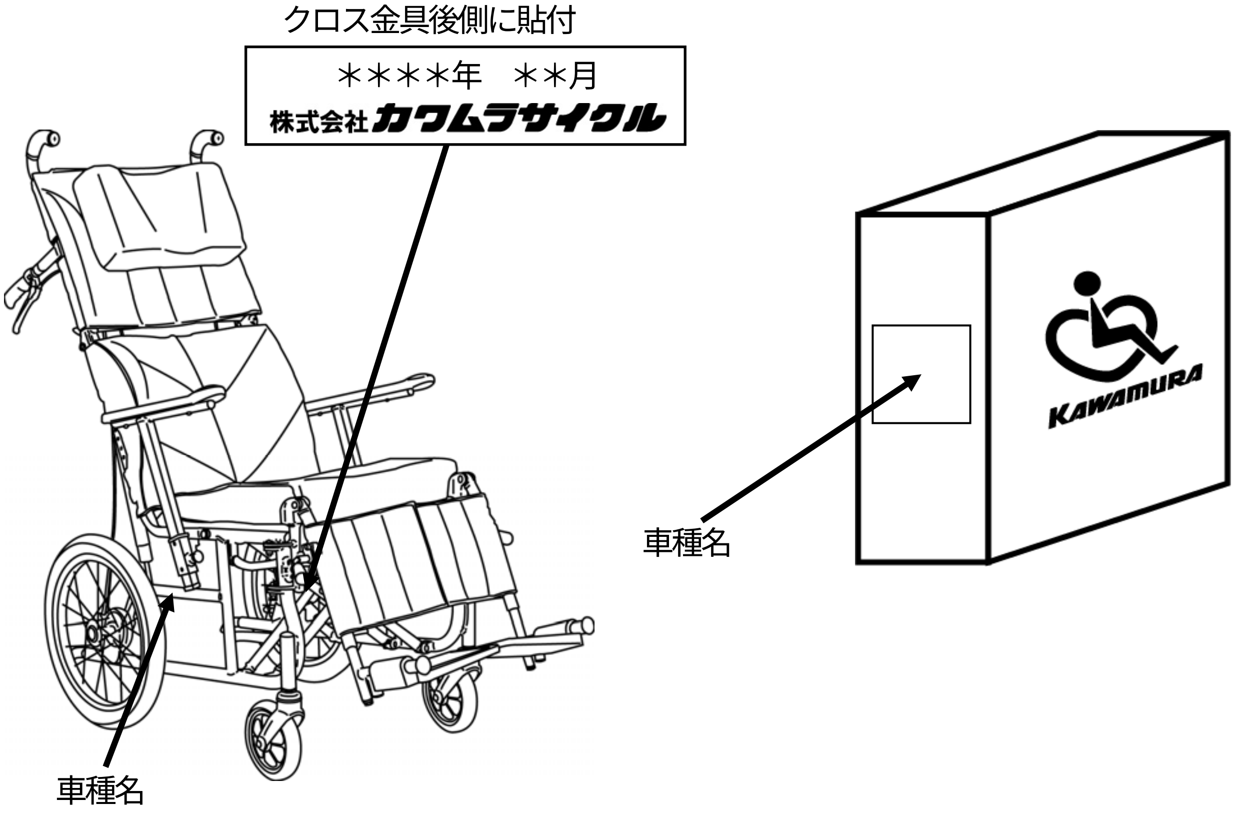
＊この車いすの後車輪のハブ軸は $^{1}/_{2}$ -20UNF のねじを使用しております。また、シート・バックサポート部、フットサポート部、背折れ金具、介助ブレーキのバンドカバー部には十字穴付きタッピンネジを使用しております。

１９.製品記録

アフターサービスなどを的確に受けるため、車種・製造月を記録しておいてください。

車　　種	
製 造 月	年　　　　月

＜シール貼付位置＞



20.保証とアフターサービス

弊社の定める保証とは、正常な使用状態において、故障が生じた場合に限り、無償にて修理を行うことをお約束するものです。

★保証書

この商品には保証書を別途添付しております。保証書は所定の事項を記入のうえ、商品購入後１ヶ月以内に当社へご返送ください。
保証期間はお買い上げ日より１年間です。

★保証期間後

お買い上げの販売店にご相談ください。修理によって商品の機能が維持できる場合は、ご希望により有料修理させていただきます。

★保証の適用除外となる場合

（ａ）ご使用による消耗品および取扱不注意による破損
　例）タイヤの磨耗およびパンク、シート、ステップ板の破損等
（ｂ）地震、台風、水害などの天災および事故、火災による焼失・破損
（ｃ）お取扱の不注意、操作未熟ならびに故意または過失など誤って使用されたことによる破損
（ｄ）保全上の不備および弊社の特約販売店以外で行った修理や改造等による破損
（ｅ）弊社が指定する純正部品以外のパーツ等の使用により発生した破損
（ｆ）一般に車いすが走行しない場所、または特殊な状態での使用による破損
（ｇ）製品本来の使用目的にそぐわない使用による故障および破損
（ｈ）取扱説明書に従わずに使用して生じた故障および破損
（ｉ）取扱説明書に禁じられている使用方法によって生じた故障
（ｊ）ご購入後１ヶ月以内に登録されていない場合
（ｋ）日本国外でご使用の場合

★消耗部品

・前車輪(車輪のみ)	・後車輪(車輪のみ)	・背ベースシート	・バンド式介助ブレーキ本体
・ベアリング	・肘当てパッド	・背クッション	・ドラム式介助ブレーキ本体
・タイヤ	・ふくらはぎパッド	・座ベースシート	・ガスダンパー
・チューブ	・板バネ	・座クッション	・メカニカルロック
・虫ゴム	・ステップセット	・足ベルト	・ワイヤー

★補修用性能部品の最低保有期間

弊社はこの商品の補修用性能部品を製造打ち切り後、5 年保有しています。
性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

★修理のご依頼

異常がある場合は、ご使用を中止しお買い上げの販売店にご依頼ください。

★本製品を他人に譲る場合

この製品を他の方にお譲りになる時は、必ず本書もあわせてお渡しください。

※一度使用したものは、原則として製品のお取り替えはできません。

地球の環境保護のため、廃棄するときはそのまま放置しないで

各自治体の取り決めにしたがってください。

株式会社カワムラサイクル

■本社	〒651-2411	兵庫県神戸市西区上新地 3-9-1	TEL078-969-2800
■本店サービスセンター	〒651-2411	兵庫県神戸市西区上新地 3-9-1	TEL078-969-2820
■東京サービスセンター	〒110-0013	東京都台東区入谷 1-8-3	TEL03-3874-3511
■横浜サービスセンター	〒220-0073	横浜市西区岡野 2-12-9	TEL045-290-9585
■名古屋サービスセンター	〒487-0027	愛知県春日井市松本町1-3-11	TEL0568-52-4800
■大阪サービスセンター	〒564-0044	大阪府吹田市南金田2-20-10	TEL06-6190-8488
■福岡サービスセンター	〒819-0055	福岡市西区生の松原1-18-3	TEL092-882-4722

■神戸工場　■神戸第二工場　■いなみの工場　■メンテナンスセンター

本書に記載の意匠、仕様および部品は性能向上の為に、一部予告なく変更することがあります。

修理・お手入れ・お取扱いなどのご相談は、まずお買い求めの販売店へお申し付けください。

・転居や贈答品などでお困りの場合は、商品名・品番をご確認の上、上記へ。

2010.03 版